

12月低学年鑑賞会「火よう日のごちそうはひきがえる」事前企画 役者さんと一緒に、人形を作って遊ぼう！

11月11日(土) 10:00~12:00 御南西公民館 (参加者:12世帯 子ども14人・大人12人)
14:30~16:30 京山公民館 (参加者:8世帯 子ども14人・大人8人)
講師:人形劇団京芸 坂下智宏さん(ミズク役)

坂下さんから、ご自身のプロフィール、紙芝居で物語のあらすじや見所などを聞きました。
その後、手袋人形の作り方、遊び方を聞きました。



プロフィール
石川県輪島生まれ、先生一家の中で育ちました。高校ではコーラス部、大学では人形劇サークルに所属していました。先輩がクラルテに入団して、「人形劇って仕事になるんだ!」と思い、人形劇団京芸に12年前に入団しました。

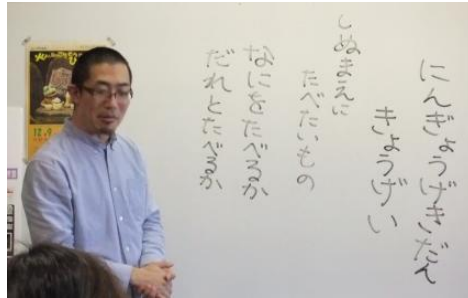


紙芝居でお話を聞きました。
寒い冬のお話です。土の下では、カエルたちが暮らしています。お菓子作りの得意なモートの作った砂糖菓子を、ウォートンがおばさんに届けに出かけることになりました。リュックの中にお茶・パイ・サンドイッチ・砂糖菓子を中にいれて、スキーで出かけました。すると・・・パタパタパタと・・・

劇中に「お茶を飲む」シーンがたくさん出てきます。注目してほしい場面です。そのことが、とても大切な役割をしているので、以下の2つの事について話されました。

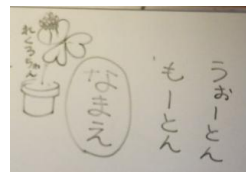
1つ目は、「死ぬ前に食べたいものは、何でしょうか?」と尋ねられました。

坂下さんが思い浮かぶのは、家族で白山に登って、そこで飲んだ「ホットミルク」です。「何を食べるか?」だけではなく「誰と食べ、どんな情景だったかも浮かんでくるのが大切だ。」と言われました。



2つ目は、「名前な何のためにあるのでしょうか?」
名前を付けると、特別な物になります。

ミズクは、一人で暮らしていて、他の人から呼ばれることもなくなり、名前がなくてもよくなりました。



かえるの手袋人形作りをしました。
・かえるの顔を好きなようにかいて、名前をつけてみんなで遊び合いました。
人形劇で大切なことを言われました。
・相手の目を見て話しをすること。「何を考えているのかな〜。」「何をしたいのかな〜。」と思うことも大切です。



30匹の、かえるの手袋人形が出来ました。ロビーに飾ります。作った方は、当日持ってきてくださいね。

